

資料①「みんなの声を聞いてみた テーマ『秋田』」

このアンケートより、「好き」の理由には食、治安、人の良さなど様々な意見が見られるが、好き以外の理由にはたまたまかもしれないが、何もない、不便といった意見が多いと感じた。私も現在仙台に住んでいるから思うが、秋田は遊ぶ施設や買い物施設などの娯楽施設が充実していないと感じる。確かに秋田県は少子高齢化の進行により、子供の遊び場や商業施設が縮小してしまっているのが現状である。よって現実的ではないと思うが県全体で商業施設や公園などの遊び場の運営のサポート、それに伴うインフラの整備(電車の本数の増加など)を行うことが必要なのではないかと感じる。このように秋田にいたい、秋田が好きと思ってくれるような町作りを、秋田県は行っていかなければいけないと感じる。

この資料は、秋田県内の中学生 2 年生 135 人に秋田県についての 3 つの質問についてまとめたものである。私が印象に残ったのは 2 つ目の質問の大人になっても秋田に住み続けたいかである。約 4 割の人がいつかは帰ってきたい、秋田を出たい人が約 3 割であった。

いつかは帰ってきたいという人がたくさんいることから、秋田を離れ知識や技術を身に付けこれからの秋田を支える人材になってほしいと感じた。私も現在秋田を離れ、山形の大学に在籍しているが、秋田に帰省すると改めて地元の温かさや安心を感じる機会がたくさんある。就職先も秋田県内に決まったこともあり、地元秋田に貢献し、自分を育ててくれた恩返しをしていきたいと考えている。

私は、6 割近くの人々が秋田のことが好きであることを知り、地元である秋田に思い入れがある人々が多いと感じました。私は、実際に秋田に戻るかどうかは決めかねているところではあるのですが、いつかは帰ってきたいと考えている人たちの意見にかなり共感しました。実際に他県で一人暮らしを始めてからは、現地や生活に慣れることが大変であったためか、実家に帰ると安心感を抱くことが多くありました。そのため、自分にも故郷に対しての思い入れが残っていると感じました。私はいずれ秋田に帰ることになった際には自然や景色、美味しい食べ物や特産品など、秋田の良い部分はいつまでも残っていてほしいと思いました。

この資料を読んで最初に感じたことは秋田が好きな子供たちが沢山いる中で県外に仕事を求めて出ようとする子供たちも沢山いるのだと感じた。Q1 では 6 割越えの子供たちが秋田を好きだと答えていて、その理由には空気や水がおいしかったり人が優しくったりなど様々な理由が挙げられた。これらに関しては仙台に進学して 4 年が経つ私自身も秋田の魅力だと感じている。私は秋田を離れてから秋田の良さに気づくことができた。帰省の時に秋田の山々に囲まれた風景や街の様子を見ると懐かしさと秋田がもつ空気感的なものを感じる。秋田を好きな子供たちは将来一度秋田を出てみてほしいと思う。なぜなら秋田を出るこ

とで秋田を知ることができるからである。そこで秋田の良さを再認識して、この秋田をもっと良くしていくためには何が必要なのか考える必要があるし、自分もこれからも考えていきたい。

この記事を読んで、嬉しさと今の秋田の問題点を同時に感じた。Q1 の意見を見てみると秋田を客観的にみた意見が好き側にみられる。自分も大学で秋田を出てみてわかったが、改めて秋田を振り返ってみるとどこまで行っても自分にとっての故郷であり、魅力的な県だと思う。秋田の魅力が感じられなくなったら外から見てみてほしいと今の子供たちに伝えたい。その中で感じた問題点は秋田が好き人が多いのに残る人が少ないということだ。Q2 の意見が顕著に秋田の現状を表していると感じる。住み続けたいと答えている意見も消極的な意見が多いことが目立っていると感じた。大人になったときにも魅力的な県を作ることができるかということが今の秋田が解決しなければいけない問題であり、重大な問題であるところの記事を読んで感じた。

私は、元々秋田のことが大好きですが、秋田を離れてから、良さを再確認し、更に好きになりました。私は今仙台に住んでいるのですが、同じ東北でも県民性の違いを強く感じます。秋田に住んでいた頃は、温かい人が多く、ゆったりとした時間が流れている感じでしたが、仙台は、せかせかしている人が多く、時間に追われている印象です。もちろん親切な人も沢山いますが、人口が多い分、様々な人がいるため、マナーの悪い人も多く目についてしまいます。外出の際は、歩行者の立場としても運転者の立場としても、道を譲ってばかりでは全く進めません。人の温かさは、秋田が自信を持つべき魅力だと私は思います。

今回の記事では、秋田県のことを好きな人が思っていたよりも多いということが分かった。私は、秋田県外で生活しているが、ときどき秋田に帰りたいたいと思うことがある。都会の騒音の中で生活し続けることは、精神面でストレスを抱えることになる。今までの静けさがなくなり、さらには水や空気が変わり、身近にあった自然がなくなるのである。記事を読んだことによって、現在の中学二年生がどのように考えているのかが分かった。まだ他県で暮らしたことがある人は少ないのかもしれないが、実際に他県で暮らしたとき、秋田がいいと思う人が増えるのではないかと思う。今住んでいる中学生が大人になったとき、今までの秋田県のいいところが変わらないよう、私たち大学生ができることは行いたいと思う。

この記事を読んで、自分と同じように感じている人が多くいることに安心した。記事のすべての質問について、私は秋田が好きという立場で住み続けたいと思っている。一方でそうではない側の「遊ぶところがない」「店が少ない」という意見もよくわかると感じた。

今はとなりの岩手県盛岡市に住んでいるが、交通の利便性、商業施設の充実度で言えば、秋田県よりも優れているなど感じるものがたびたびある。岩手の中央であることも影響し

ているが住んでいる場所から少し移動するだけで飲食店や遊ぶ施設も多くある。しかし私は、実家に帰省をするたびに、やっぱり秋田はいいな、落ち着くなと感じる。このように感じる要因としては、やはり自然によるところが大きいと考える。自然のぬくもりを感じる感覚は、小さいころからそういった環境で生活することで養われるため、将来家庭を持ったら自分と同じように自然と関わっていききたいし、こういった意識をほかの人にも共有していただけたらいいなと感じる。

自分が想像していたよりも多くの人が「秋田が好き」と思っていることに驚いた。また、秋田愛が中学生のうちから芽生えていることはとても良いことだと感じる。しかし、大人になったら秋田を出たいと考えている人も少なからずいることが分かる。秋田は好きだけど、大人になって就職などを考えると、「秋田を出たい」と思ってしまうのではないかと考える。たしかに、東京などと比べると就ける職業は少ない。しかし、秋田にも魅力的な職業は少なからずあると感じる。私は、高校時代にもらった秋田の職業のパンフレットを見て、このことに気づいた。このように、次の時代を創っていく若者に積極的に秋田について発信していくべきだと感じる。

私は、この資料を読んで、郷土愛の育成とキャリア教育の両方がうまく育まれている結果になっているのではないかと考えた。この資料では、県内の中学2年生の66.7%が「秋田が好き」と答えており、また、この問い以外でも回答の理由として秋田のよさが多く解答されている。このことから、子どもたちが故郷である秋田のよさを知ることができているということがわかる。一方で、「大人になっても秋田に住み続けたい？」という問いに対して、秋田を出たいと答えた人の理由に、秋田にはない職業がたくさんある」という回答がある。この回答について、自身が将来就きたい職業について知っており、また、そのためには他県に行く必要があるという自身のキャリア形成について深く考えていることが伺える。この2つの視点を取り入れ、子どもが秋田で働きたいと思える地域づくりが重要であると考えた。

大学に通いはじめて県外の人と交流してみて秋田の魅力を再認識するきっかけになりました。県外から来た人に秋田県の魅力について聞かれたときに山や水がきれいなどの無難な知識しかいうことができなかったがそれを聞いた人は自然があるのはうらやましいと言っていました。そこで私が当たり前だと思っていた自然は他の人から見たときには珍しく貴重なものなのだなと感じました。記事には遊ぶ場所がないや店が少ないなど書かれていますが私は「人がやさしい」や「自然が豊か」などのゆったりとした秋田が好きです。

秋田県民は普段から県外の人には味わえないような体験をしているのでこの魅力を県外にも発信できるように頑張りたいです。

私は高校卒業後、秋田県から県外へ進学しました。しかしそれは、秋田県が嫌いだからで

はないし、むしろ秋田県がすごく好きです。県外に出ると、どうしても秋田県と比べてしまうことや、世間の秋田県に対するイメージを直接浴びてしまうことがあります。それでもこの記事を読んで私は、秋田県民が秋田県を好きな理由全てに強く共感しました。人口減少問題が深刻となっていますが、このアンケートの結果を見てわかるように、県外に出る理由や残る理由と好き嫌いが結びついているとは限らないし、そこにはそれぞれの理由があって、秋田県に問題があるわけではないと思います。確かに人口減少の原因が秋田県環境にあることも理解していますが、秋田県民が秋田を好きな理由として挙げていることは今後も守り続けたいと思うし、今のままの秋田県も愛していいのではないかと思います。

秋田のことが好きか嫌いかにについて自分が住んだ経験だけから考えるのであれば、私は秋田県が好きだ。秋田県というよりも横手が好きだ。大人になっても秋田に住み続けたいかという質問に対しては、いつかは帰ってきたいと思っている人が多いことに納得した。理由は私自身も同じ気持ちを持っているからだ。やはり自分が生まれて不自由なく育つことが出来た故郷は絶対に忘れることはなく、また秋田にはいつかは帰ってきたいと思わせる魅力があると考える。人口減少や若者の流出問題は致し方なく、すぐに解決できることでもない。私は人口減少対策よりも流出した人たちにいつかは秋田に帰りたいと思わせたり、他県の人に秋田に住んでみたいと思わせたりすることの方が人口問題の解決につながりやすいと考える。

この新聞を読んで、秋田の若者の流出について考える。このアンケート結果から秋田が好きと答えている人が6割いる。その反面、秋田に住み続けたいと思っている人は2割もない。このことから秋田は好きだが、住み続けたいわけではないというところに秋田の課題があると感じた。実際、若者の流出は増え続けている。住み続けたいと思えるようなところにしていくと同時に帰ってきたいと思えるような地域にしていく必要があると思う。県や横手市でも住みやすい県づくり、街づくりが検討されているがなかなか進まないのが現状だ。また、いつかは帰ってきたいと思っている人が4割いるが、進学や就職等で一度出ると戻ってくるという気持ちが薄れていくのではないかなと思う。秋田の良さを生かしつつ、ニーズに対応する方法をみんなで模索していきたい。

この資料から、秋田県に対する県民の多様な考えが分かりました。秋田の「好き」な部分として四季折々のおいしい食べ物や行事、自然の豊かさなどの秋田ならではの魅力が強調されています。一方で「好きではない」と答えた人々からは、商業施設の不足といった若者の年齢層にとっては不満の声があるようです。また秋田に住み続けたいかについても意見が分かれ、住む続けたい人は治安の良さや地元への愛情があり、一方で出たい方は就職や進学之机を求めていることが分かり、いつかは帰ってきたいという人もいることが分かります。秋田に変わってほしい点として、商業施設の充実、観光業の向上などが挙げられています。秋田には伝統文化や秋田を象徴するものは残してほしいという声もありま

す。総じて、秋田県には豊かな自然と伝統文化という強みがある一方で、過疎化への対策が求められているという現状がこの資料からわかりました。住民の声に応える施策が必要だと感じました。

秋田のことを好きではない、わからないという子どもが3割近くいることを知って驚きました。私自身も大学進学のために秋田を離れて4年になります。帰省するたびに今住んでいるところと秋田を比べて、「秋田には何もないな」と思ってしまうことがあります。公共交通機関の不便さ、商業施設や娯楽施設の少なさ、そして仕事の少なさ。若い世代が将来、安心・安定した生活を送るには十分な環境は整っていないと考えています。このままでは、現時点でいつかは秋田に帰って来たいと思っても、時間が経てばその思いも薄れてしまうと思います。これ以上若い人口の流出を防ぐためにも秋田の「変化」が急務となるでしょう。豊かな自然環境や歴史ある伝統文化や行事などの秋田の良さはそのままに、行政が未来を担う若い世代のために魅力を感じる秋田づくりを行なってほしいと思いました。